

その3



財務部

県内企業の景況感

全産業の現状は「上昇」超に転じる 先行きも「上昇」超

「上昇」超に転じている。
先行きについては、十年七月九月期は製造業で「上昇」超幅が縮小し、非製造業で引き続き「下降」超となっていることから、全産業ではわずかながら「下降」超に転じる見通しとなっている。十一月期は製造業で「上昇」超幅が拡大し、非製造業で「上昇」超に転じていることから、全産業では「上昇」超に転じる見通しとなっている。

売上高

十一年度は上期、下期とも、製造業・非製造業のいずれも増収とみており、全産業では各々・三・三％、二・八％の増収見込み見通しとなっている。

十一年度通期は、全産業で二・二％の増収見通しとなっている。

経常損益

十一年度上期は、非製造業で減益とみているものの、製造業で大幅な増益とみていることから、全産業では七・二％の増益見込みとなっている。

十一年度下期は、製造業・非製造業とも増益とみていることから、全産業では二・三％の増益見通しとなっている。

十一年度通期は、全産業で十三・三％の増益見通しとなっている。

設備投資

十一年度の設備投資計画を前年度比でみると、製造業で十五・六％、非製造業で三・八％の減少となっていることから、全産業では四・九％の減少計画となっている。



従業員数

現状では、非製造業で「不足気味」超幅が縮小し、製造業で「過剰気味」超幅が拡大していることから、全産業では「過剰気味」超に転じている。

先行きについては、製造業で「過剰気味」超幅が縮小し、非製造業で「不足気味」超幅が拡大する見通しとなっていることから、全産業では「不足気味」超に転じる見通しとなっている。

金融機関の融資態度

現状では、中堅企業で、きびしい超幅が拡大しているものの、大企業で、きびしい超幅が縮小しているほか、中小企業では、ゆるやか超となっている。

先行きについては、中小企業では、きびしい超に転じた後、再び、ゆるやか

超に転じる見通しとなっており、大企業・中堅企業では引き続き、きびしい超で推移する見通しとなっている。

中期的な経営課題

全産業では、「国内販売体制、営業力の強化」を挙げる企業が最も多く、次いで「企業実態に即した雇用、人事、給与システムの確立」の順となっている。

